

授業実践研究

外国語活動・外国語科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するための活用するICT
～児童・生徒が主体的に学ぶ導入の工夫について～

向陽中学校	金成みなみ（リーダー）
伸栄小学校	九里 大地
泉小学校	澤田 紗綾
中央小学校	菅野 未緒
小手指小学校	野本由利子
所沢小学校	稲川 円理

担当指導主事

東村 広子

外国語活動・外国語科授業実践研究部

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫
～児童・生徒が主体的に学ぶ導入の工夫について～

II 研究主題について

令和2年より小学校高学年の外国語科の導入にあたって、文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」では、「平成23年度から高学年において、外国語活動が導入され、その充実により、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められている。」一方で、高学年は、「より体系的な学習が求められること」「中学校への円滑な接続を図ること」（文部科学省 2017 p63）が重視されている。

そこで、本研究部では、授業段階の新教材導入場面に焦点を当て、Small Talk を通した学習方法や学習形態の工夫改善を行う授業実践をしていくものとする。小学校の外国語活動・外国語科並びに中学校の外国語科において、小・中学校の系統的な学習を踏まえ、自分の思い等を伝え合う喜びを実感できる言語活動を充実させ、児童・生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図る授業を構想し、実践することが必要であると考え、本主題を設定した。

III 研究の内容

1 研究の方向性

新教材の導入時に児童・生徒が学習事項を理解するには、以下のような点が重要と考える。

- (1) 児童・生徒の興味・関心を高める題材であること。
- (2) 授業で行う活動のねらいや必要性を理解させること。
- (3) 新しい語彙や表現の音声的特徴や、形、意味、使い方に気付かせること。
- (4) 新教材と関係の深い既習事項について、定着が十分なこと。
- (5) 児童・生徒ができそうだという期待感や学習の見通しを持たせること。

これらに留意した上で、児童・生徒の主体的な学びにつながる指導方法を改善していくことが求められる。そこで、1年目は児童・生徒の実態を把握するアンケートづくりを行った。そして、2年目には、アンケートの結果を基に各校で指導方法の改善を行い、Small Talk に焦点を当てた授業づくりを行った。

2 事前・事後アンケート

児童・生徒の実態を把握し、指導方法の工夫改善を図り、工夫改善後の授業について効果を検証することを目的とし、アンケートを令和3年6月上旬・11月下旬に行った。実施対象は所沢小学校5年1クラス、泉小学校4年1クラス、伸栄小学校1年1クラス、中央小学校6年1クラス、小手指小学校5年1クラス、向陽中学校3年1クラスである。

	5	4	3	2	1
外国語を学んでみたい、それ以外にやることもないからやってみよう。	とても	どちらか	どちらか	どちらか	とても
	多い	多い	多い	多い	少ない
	多い	多い	多い	多い	少ない
授業	1つくらいやってみよう。				
1 外国語の学習は好きだ。					
2 外国語の授業で、単元(単元)の勉強の楽しさや面白さを感じている。					
3 外国語の授業で、一冊の本の勉強について理解している。					
4 外国語の授業の勉強には、頑張る必要を感じている。					
5 外国語を話すことを楽しんで、英語を学ぶことが面白いと思う。					
6 外国語の授業は、面白いと思う。					
7 海外の文化や生活に興味があるから英語を勉強したい。					
8 テレホンや電子辞書、デジタル教科書の活用が勉強の楽しさを感じている。					

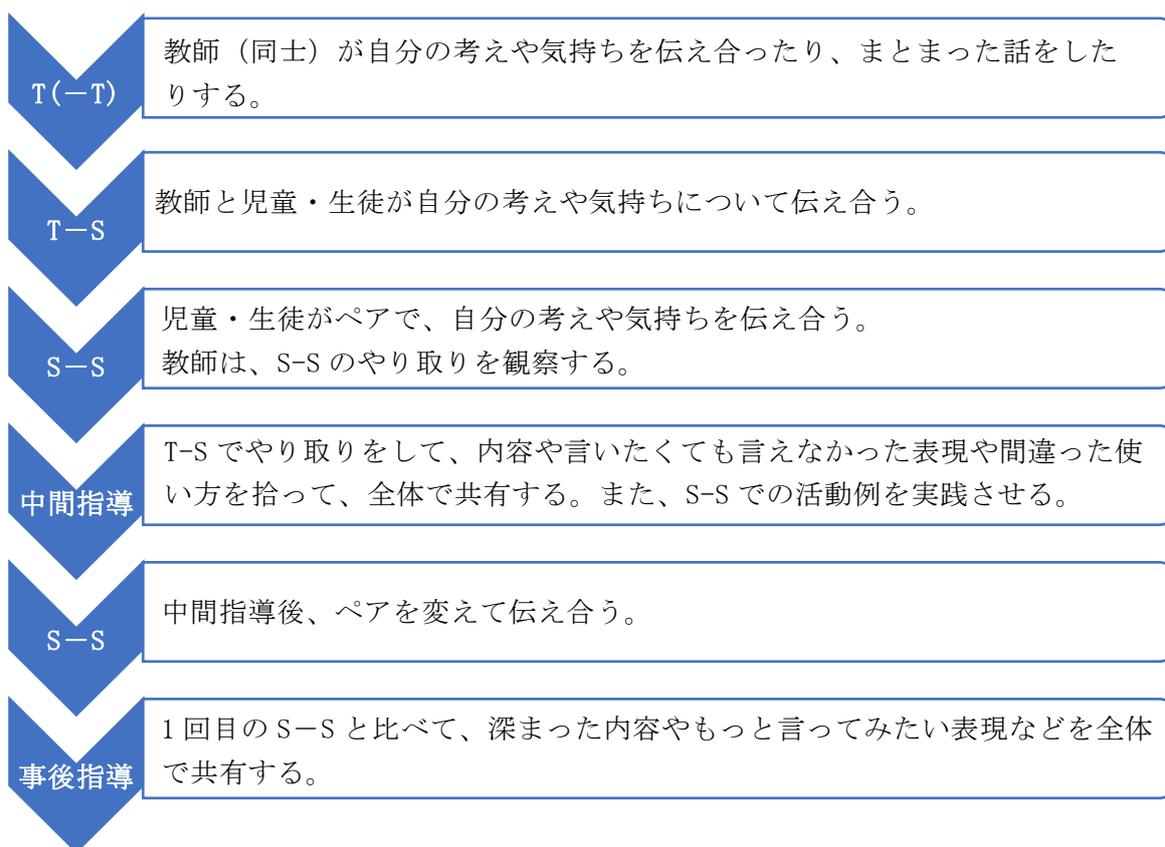
3 Small Talk

話すこと「やり取り」の目標について、文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」では、「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」（文部科学省 2017 p79-80）と示されていることを受けて本研究における Small Talk とは、文部科学省（2017）「小学校外国語活動・外国

語 研修ガイドブック」では、「2時間に1回程度、帯活動であるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝えあったりすること」とし、Small Talk の意義については、「(1)既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る。(2)対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。」(文部科学省 2017 p84) こととした。

本研究において、Small Talk を作成する際に、はじめは、小・中学校で取り扱う表現や文法を基にしてテーマを決めていた。しかし、単元や1時間の授業の導入として扱うには、終末の活動内容と合わず、目的・場面・状況の設定がしづらかったり、本時のめあてに結びつきにくかったりした。そのため、単元の内容や終末の活動に沿ったものを作成し、児童・生徒がイメージを持てるように工夫した。Small Talk の内容を考える際には、意図的に既習表現を入れたり、身近な事柄や児童・生徒が興味を持つ事柄を取り入れたりするようにもした。

また、児童・生徒がやり取りの内容をイメージしやすいように、具体物や掲示物を用いるなどの工夫をした。そのような工夫を通して、本研究では、Small Talk の流れを以下のようにして実践した。児童・生徒に意図した表現や語彙、本当の気持ちについて、やり取り (T-T) を見せ、そこから、教師と児童・生徒 (T-S)、児童・生徒同士 (S-S) のやり取りに広げていった。そして、1回のS-Sで終わらせず、中間指導と2回目のS-Sを入れることで、児童・生徒が、新たに自分が言いたい表現や語句を習得できるようにした。



IV 実践例

1 泉小学校 7月8日(木)実施 4年1組 授業者 澤田紗綾・扇谷由美 (外国語支援員)

(1) Small Talk

单元名	I like Mondays.
单元のめあて	自分の好きな曜日に友達を誘うために、相手に伝わるように工夫しながら、好きな曜日やその理由を尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。
<p><T-T></p> <p>T1: Look! This is my schedule. (1週間の教師のスケジュール表を黒板に提示し、示しながら曜日の言い方を聞かせ、想起させる。)</p> <p>T1: Monday, I play tag. Tuesday, I watch drama. Wednesday, I play tennis. Thursday, I join club activities. Friday, I study P.E. Saturday, I watch ドラえもん. Sunday, I watch イッテQ.</p> <p>T2: Oh, nice. What day do you like?</p> <p>T1: I like Sundays.</p> <p>T2: Why?</p> <p>T1: I like “イッテQ”.</p> <p>T2: Ah, I like “イッテQ” too!</p> <p>T1: Do you like “イッテQ”? (必要に応じて、児童に問いかける。)</p> <p>S1: Me too!</p> <p>S2: Not me!</p> <p>T1: How about you? Do you like Sundays?</p> <p>T2: No, I don't! I don't like Sundays.</p> <p>T1: Why?</p> <p>T2: Sunday, I clean up my house!</p> <p>T1: Oh, you are so busy.</p> <p>T2: I like Fridays. I dance.</p> <p>T1: Good! You like dancing!</p> <p><T-S></p> <p>T1: I like Sundays. T2 likes Fridays. How about you? What day do you like?</p> <p>S3: I like Fridays!</p> <p>T1: Why?</p> <p>S3: 水泳を習っている!</p> <p>T1: You like Fridays! You go swimming!</p> <p>S4: I like Saturdays! I play baseball.</p> <p>S5: I like Wednesdays. I play cards.</p> <p>○本時のめあてを提示する。</p>	

(2) 工夫した点

本研究では、小学校4年生において児童同士のやり取りをせず、教師のまとまった話を聞かせることとしたため、児童の発達段階や英語学習の積み上げが少ないことを考慮し、視覚的に理解できるように配慮した。今回は曜日と予定を取り上げることから、1週間のスケジュール表を用意し、指で示しながら英語で話すようにした。また、中学年段階でS-Sのやり取りは難しいと判断し、会話の中でT-Sのやり取りを出来るだけ多く取り入れるように心がけた。児童が日本語で表現しても良いという雰囲気を作り、児童にとって身近な題材を設定し、会話の中で教師が言い換えることで英語に慣れ親しませるようにした。

(3) 成果と課題

単元や本時の初めに、Small Talk を通してゴールとなる姿を示したことで、児童が学習のめあてをよく理解し、見通しをもって活動に取り組むことができたのは成果といえる。また、会話の内容を視覚的に表したことで、英語が苦手な児童の理解を助けることができ、教師や友達の発言に反応する児童が多く見られた。事前のアンケートでは、児童の多くが外国語活動の時間で発言しにくいと感じていることが分かった。課題として、Small Talk のような短いやり取りをするときには、自信をもって発言できる児童に偏りがあり、Small Talk の中で既習内容を聞いたり話したりする活動だけでは十分な定着にはつながらないと実感した。Small Talk を単独の活動として捉えるのではなく、単元と関連付けながら他の活動で聞いたり、真似をして話したりする経験を更に積み重ねる必要があったと考える。また、児童の発言から話の内容を広げ、使用したい表現を何度も使ったり聞かせたりすることが大切だと感じた。教師が会話をつなげたり、広げたりする語彙を持つことが必要であるとともに、児童が会話に参加できるように、会話のつなげ方や反応の仕方と同時に指導する必要がある。

2 中央小学校 10月14日(木)実施 6年2組 授業者 菅野未緒・藤江美和(外国語支援員)

(1) Small Talk

単元名	My Favorite Memories
単元のめあて	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分の思い出に残っている学校行事について「思い出絵本」を話すことができる。
<p><T-T></p> <p>T1: I have a lot of memories in school days. For example, a sport day, a school trip, lunch time...</p> <p>T2: What is your favorite memory in your school days?</p> <p>T1: My favorite memory is the sport day.</p> <p>T2: Oh, the sports day. Why?</p> <p>T1: I was a cheer leader. I enjoyed cheering.</p> <p>T2: That was really fun.</p> <p>T1: What is your favorite memory?</p> <p>T2: I like curry and rice. It was very delicious. My favorite memory is lunch time.</p> <p>T1: Oh, I like curry and rice too. That was really yummy.</p> <p><T-S></p> <p>T1:(児童に向けて) What is your favorite memory?</p> <p>S1: My favorite memory is the sport day.</p> <p>T1: Oh! The sport day. Why?</p> <p>S1: I enjoyed Frag. It was exiting.</p> <p>S2: My favorite memory is the music day.</p> <p>T1: Oh! The music day! Why?</p> <p>S2: I enjoyed singing with my classmates.</p> <p>T1: Wow. It was nice!</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p><S-S></p> <p>AB: Hello.</p> <p>A: What is your favorite memory?</p> <p>B: My favorite memory is the “なかよし遠足”</p> <p>A: Oh, the “なかよし遠足” Why?</p> <p>B: I played with my friends. It was very fun.</p> <p>A: That was really fun.</p>	

B: What is your favorite memory?
 A: My favorite memory is the music festival. I enjoyed performance.
 B: Oh, I enjoyed performance too. That was really fun.
 ○中間指導
 T1: Do you have any questions?
 S3: 「友達とお昼ご飯を食べた」と言いたい。
 T1: 「友達とお昼ご飯を食べた」ってなんて言えばいいかな。
 S4: I ate Lunch.
 T2: Yes. I ate Lunch with my friends.だね。

(2) 工夫した点

同じテーマの Small Talk を繰り返し行うことで、児童が英語表現に慣れ親しむことができるようにした。また、Small Talk で出てきた学校行事の絵カードを黒板に掲示し、言葉の意味が分からなくても視覚的に理解ができるようにしたり、“It was fun” や “That’s nice” などの言葉を意識的に使ったりして、より会話が本物になるようにした。

(3) 成果と課題

成果としては、中間指導の場面で、児童が言い方がわからなくて言えなかったことをみんなでも共有することによって、語彙を増やしていくことができたことである。課題としては、児童の Small Talk の内容をあまり広げられなかったことである。教師から児童に教えるだけでなく、児童が発言した言葉を全体で共有することが児童に必要感や達成感を味わわせることにつながるのだということが分かった。また、児童のわからない単語や表現を難しい言葉でそのまま教えるのではなく、既習事項を使って簡単な表現にできないかと考えていくことも必要である。

3 小手指小学校 10月20日(水)実施 5年1組 授業者 野本由利子・Antonio Pineda

(1) Small Talk

単元名	Where is your treasure?
単元のめあて	道案内で、外国から来た方に小手指の町の魅力を伝えるために、お気に入りの場所への道案内とその場所を選んだ理由を伝えることができる。
<p><T-T> T1: Every one, look at this picture. This is Tom. He is an English teacher and my friend. (TV でプロフィールを見せる。) Tom asked me (小手指の地図を見せながら) “I want to know about Kotesashi. Where is your favorite place in Kotesashi? I want to listen to your 道案内.” But I can’t answer because I don’t know about Kotesashi. So please help me. Please tell me your favorite place in Kotesashi. Do you have a good idea, T2? T2: Ok, Go straight. Turn right. Go straight. You can see it on your right. T1: (指で地図上をたどりながら) Wow! Is it coffee shop? Why? T2: We can eat pancakes. T1: That’s nice. Do you like pancakes? Oh, I have a good idea. T2, go straight, turn at the 2nd corner. Go straight. You can see it on your left. T2: Oh, is it supermarket, マミーマーケット? T1: Yes. It’s ダイソー. T2: Why? T1: Because we can buy many goods. It’s cheap.安い。How about you? Do you have</p>	

any good ideas? Where is your favorite place?

<T-S>

T1: (TVのプロフィールを見ながら)Tom likes Japanese food. Do you like Japanese food?

S1: Yes, I do.

T1: That's nice. Where is your favorite place?

S2: Sushi restaurant!

T2: Why?

S1: Because it's delicious.

○本時のめあてを掲示する。

<S-S>

S2: Where is your favorite place?

S3: Go straight, turn right, and go straight. You can see it on your left.

S2: It's your house. Why?

S3: お母さんの料理が美味しくて食べてほしいから。

S2: That's nice.

○中間指導

T1: 今の表現はみんなが知っている英語でなんて言うことができるかな。

S4: My mother can cook.

(2) 工夫した点

小手指という児童が慣れ親しんだ場所で、この町の魅力を伝えるためという目的を持って Small Talk を繰り返し行うことで、児童が英語表現に慣れ親しむことができるようにした。また、テレビには小手指にくるアメリカ人のトムのプロフィールを映し、児童がどんな場所にしたらよいかを考えるヒントになるようにした。黒板には、シンプルにした小手指の地図を掲示し、児童が道案内をする際に困惑しないよう、黒板の地図を使って道案内を示した。また、その場所を選んだ理由を聞き合い、会話がより深まるようにした。

(3) 成果と課題

児童同士の会話の後に、中間指導で児童が道案内をした際に、言い方がわからなくて言えなかったことや、みんなが言いたかった表現を聞き、共感しながら後半のやりとりに進むことができた。しかし、Small Talk の中で出た内容を教師が広げることができなかったこと、黒板に全体で共有したいことを書くスペースを設けていなかったことが課題である。今後も継続して Small Talk を行い、クラス全体で考え、英語表現をより豊かにしていきたいと感じた。

4 伸栄小学校 11月9日(火)実施 1年1組 授業者 九里大地

(1) Small Talk

単元名	果物の言い方を知ろう
単元のめあて	好みのミックスジュースを作る活動を通し、果物の英語の言い方に慣れ親しむ。
T: I'm hot. Are you hot? I'm thirsty. I want to drink mixed juice. I have many fruits. This is yellow. What yellow fruit is this? Bananas. I like bananas. This is red. What red fruit is this? An apple. I like apples This is purple. What purple fruit is this?	

Grapes. I like grapes.
 I like bananas. I like apples. I like grapes.
 Do you like bananas? Do you like apples? Do you like grapes?
 Mix, mix, mix.
 I like mixed juice. Yummy!
 ○本時のめあてを提示する。

(2) 工夫した点

既習の色の言い方の定着を目的として行ったため、果物の語彙やイラストを見せる前に、その果物の色を伝え、児童がそこから考えられるようにした。また、必要に応じて、色カードを提示することにより、果物の色と果物の言い方が理解できるようにした。さらに、ほとんどの英語に聞き慣れていないため、ジェスチャーを取り入れて、児童や教師の発言に興味を持つようにし、児童から出た言葉を拾って対話の形をとり、自然と英語を使ってコミュニケーションを取れるように意識した。

(3) 成果と課題

今回の研究授業では、既習の内容を意識して Small Talk を組み立てたことと、英語の発話だけでなく、イラストを併用したことにより、多くの児童が関心を持って教師の発言を聞くことができた。また、これまでの学習がどのくらい児童に定着しているかの確認にもなった。数人の児童がリアクションを取る場面はあったが、教師による一方的な発話になることが多々あった。Small Talk を考える際に、どの既習表現を使い、どんな会話が想定されるのか、児童の発言を想定して、反応などを意図した活動にしていく必要がある。また、考えていた Small Talk の内容だけでなく、児童の発言をくみ取り、即興で会話をすることも大切だと感じた。

5 向陽中学校 11月30日(火)実施 3年3組 授業者 金成みなみ・Nobile David

(1) Small Talk

単元名	Program7 (SUNSHINE ENGLISH COURSE3) Is AI a Friend or an Enemy?
単元の目標	私たちの町を世界に PR するため自分の考えや希望について話すことができる。
<p><T-T> T1: This is the robot that is famous in Japan. Do you know it? T2: Yes!! I' ve ever watched <i>Doraemon</i>. I like him. T1: Sounds good. Do you remember <i>Doraemon's</i> tools? T2: Yes. But I don' t know what tool I want. Do you know their tools? T1: How do you say ○○(S-S のやり取りで挙がった道具) in English? T2: Let' s check <i>Doraemon's</i> tools. (道具一覧の紙を配布する) T2: What tools do you want? T1: I want <i>Takecopter</i>(タケコプター) because I can go anywhere. And it' s like a helicopter. How about you? T2: I want <i>Translation Gummy</i>(翻訳こんにゃく). If I had Translation Gummy, I could communicate with many people. I want to go abroad. T1: Oh, that' s nice!!</p> <p><T-S> T1: How about you? What tools do you want?(S ~) S : I want a ○○. T2: Why? S : Because I want○○.</p>	

<S-S>

S1 : What tool do you like?

S2 : I want ○○. Because○○.

○本時の目標を提示する

(2) 工夫した点

本時の展開では、アクティビティの一つである、道具を作ろうという時間を設け、その道具を友達に伝えることで、町のものや人を紹介するという単元の目標に近づけることができた。また導入では、興味・関心が持てるような場面を作ることを意識し、そこでドラえものの道具を用いて、Small Talk を行った。

(3) 成果と課題

Small Talk で用いたドラえもんについては、目的・場面・状況という視点を大切にし、単元の目標(私たちの町をPRしよう)に向かえるように「みんな(市民)のためのよりよい道具を作ろう」などの状況を提案した。中学校でも Small Talk を積極的に取り入れることで、生徒の話したい、伝えたいという主体性や英語を通したコミュニケーションであるやり取りにつなげていくことができると感じた。

V まとめと課題

1 事前・事後アンケート

事前アンケート(6月)と事後アンケート(11月)を実施し、その結果は以下のようになっている。なお、アンケート結果を以下のように絞って提示したのは、研究のテーマである Small Talk に特に密接に関連していると考えたからである。アンケート項目(2)(3)(4)では、Small Talk を授業の導入で取り入れたことで、児童生徒が単元や1時間の授業のめあてを意識できるようになったかを検証する。アンケート項目(9)~(13)では、Small Talk で先生や友達同士で英語を使ってやりとりすることが、児童の深い学びにどのように影響を与えたかを検証する。

※()は事前アンケート結果 向陽中1年 伸栄小1年 中央小6年 小手指小5年 泉小4年

(2) 英語の授業で、単元(勉強のまとめ)のめあてや目標について理解している。

	そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	16(15)	14(12)	4(5)	1(0)	0(0)
伸栄小学校	未実施				
中央小学校	8(4)	8(11)	5(8)	4(1)	0(1)
小手指小学校	17(16)	9(11)	0(0)	1(4)	0(0)
泉小学校	19(11)	8(14)	3(7)	2(1)	0(0)

(3) 英語の授業で、1時間のめあてや目標について理解している。

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	16(15)	14(15)	2(1)	3(0)	0(0)
伸栄小学校	14(11)	11(4)	2(5)	0(8)	0(2)
中央小学校	8(5)	11(14)	4(4)	2(1)	0(1)
小手指小学校	25(22)	1(7)	1(2)	0(0)	0(0)
泉小学校	17(14)	9(11)	3(8)	2(0)	0(0)

(4) 英語の授業のおわりには、めあてや目標を達成できている。

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	11(10)	16(15)	6(7)	2(0)	0(0)
伸栄小学校	18(12)	7(6)	2(2)	0(3)	0(7)
中央小学校	7(6)	10(11)	3(7)	3(0)	2(1)
小手指小学校	18(18)	9(13)	0(0)	0(0)	0(0)
泉小学校	15(13)	3(7)	7(8)	6(4)	1(1)

(9) 友達同士で英語を使って話すことは楽しい。

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	12(16)	14(14)	5(2)	4(0)	0(0)
伸栄小学校	21(22)	4(4)	2(2)	0(0)	0(2)
中央小学校	10(13)	7(6)	6(1)	1(4)	1(1)
小手指小学校	19(21)	7(9)	1(1)	0(0)	0(0)
泉小学校	17(15)	4(5)	8(9)	2(3)	1(1)

(10) 先生と英語を使って話すことは楽しい。

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	13(14)	11(10)	7(5)	4(4)	0(0)
伸栄小学校	24(22)	3(5)	0(2)	0(1)	0(1)

中央小学校	4(6)	5(6)	10(7)	4(4)	2(2)
小手指小学校	21(23)	5(6)	0(2)	0(0)	0(0)
泉小学校	11(13)	10(11)	8(8)	3(1)	0(0)

(11) 先生や友達の話・意見・感想を英語で聞いたり、自分も英語で伝えたりすることは楽しい。
(中央小学校は事前アンケート未実施)

	そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	13(9)	11(12)	10(9)	1(2)	0(0)
伸栄小学校	23(19)	1(5)	3(2)	0(0)	0(4)
中央小学校	8	6	5	2	3
小手指小学校	19(18)	6(8)	0(0)	2(5)	0(0)
泉小学校	12(16)	9(9)	8(6)	1(2)	2(0)

(12) 英語の授業では、自分の気持ちや考えを伝えている。

	そう思う	どちらかとい うとそう思う	どちらともい えない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
向陽中学校	14(9)	10(13)	9(10)	2(3)	0(0)
伸栄小学校	22(3)	3(2)	2(10)	0(9)	0(6)
中央小学校	5(4)	8(7)	4(7)	3(5)	5(2)
小手指小学校	13(15)	10(13)	2(2)	0(0)	1(1)
泉小学校	12(12)	7(10)	5(6)	6(3)	2(2)

(13) 英語の授業で意欲的に取り組んでいる活動はどれですか。全て選びましょう。
(伸栄小学校は事前アンケート及び書くことは未実施)

	対話	チャンツ	ゲーム等	ペア活動	グルー プ活動	テレビを用 いた活動	書くこと
向陽中学校	14(13)	0(0)	18(19)	12(11)	0(0)	0(0)	23(19)
伸栄小学校	12	0	19	12	16	23	未実施
中央小学校	15(9)	10(11)	12(16)	11(9)	11(9)	6(10)	13(11)
小手指小学校	20(7)	22(10)	21(10)	18(12)	20(10)	14(9)	16(10)
泉小学校	17(5)	17(1)	26(10)	20(17)	6(8)	17(15)	20(11)

※書くことは、英語と日本語交じりの言語活動で書いたことを含む

2 事前事後アンケートからの考察

児童・生徒アンケート「(2)英語の授業で、単元（勉強のまとめ）のめあてについて理解している。」という項目では、児童・生徒の単元の理解度が上がった学校が多くあった。また、(3)英語の授業で、1時間のめあてについて理解している、「(4)英語の授業のおわりには、めあてを達成できている。」という質問に対して、Small Talk を実施したほとんどの学校で、そう思う、どちらかというと思うという児童・生徒が増えていた。この結果から Small Talk で単元や1時間のゴールを示すことは、単元や1時間のめあてや目標の理解度を深めることにつながったのではないかと考える。さらに「(11)先生や友達の話・意見・感想を英語で聞いたり、自分も英語で伝えることは楽しい」という質問においても、6月のアンケートを実施した時よりも肯定的な回答をしている児童が増えた。この結果から、Small Talk で教師同士の会話を聞くことや、教師と児童・生徒、児童・生徒同士で会話をすることが、活動の目的や授業のゴールを理解する一助となり、意欲的かつ楽しみながら取り組むきっかけになっているのではないかと考える。また、児童・生徒同士の Small Talk の後に、言い方がわからなくて言えなかったことを聞き、全体で内容を共有することでより深い学びにつながっていくと考えられる。低学年においては、ジェスチャーやイラスト、補助教具を使うことも大事な要因だといえる。これまで、児童・生徒はその時に学習した単語や短い英文を使って児童・生徒同士でやり取りをすることが多く、自分が本当に伝えたいことを、既習表現に変換して言う経験が少なかった。自分が伝えたいことを相手に英語で伝えることは非常に難しいことである。しかし、アンケート「(13)英語の授業で意欲的に取り組んでいる活動はどれですか。全て選びましょう。」の質問に対して、対話(Small Talk)、ペアワークの項目を選んだ児童・生徒数が増えている（網掛け）ことから、多くの児童・生徒が Small Talk の時間を楽しんでいる現状がわかる。今回の研究から分かる通り、児童・生徒の身近な話題を設定した Small Talk を行い、主体的・対話的な活動につながるよう指導の工夫をすることで、たくさんの英語を聞いたり使ったりすることができ、深い学びに導くことができると考える。

3 課題

Small Talk をさらに継続発展させ、主体的・対話的で深い学びにつなげていくために、以下の点を課題として考えた。

(1) 児童・生徒が本当に言ってみたいと思えるテーマで継続して行うこと。

アンケート項目の「(9)友達同士で英語を使って話すことは楽しい、と(10)先生と英語を使って話すことは楽しい。」では、変化がないという結果が多く出ている。このことから、Small Talk では、まず本当に言ってみたい、友達に伝えたいと思えるテーマを設定することが大切だとわかる。そして、授業の中で継続して実践していくことで、言えなかったことが言えるようになった、言いたいことが相手に伝わったという達成感を味わわせることが大切だと考える。

(2) 内容面と言語面を全体で共有。

やり取りの中では、会話に主体的に取り組もうとする児童・生徒がいる一方で、うまく言いたいことが言えずに会話を続けられない児童・生徒、外国語が得意で物足りなさを感じる児童・生徒もいる。そのような児童・生徒が安心して意欲をもって取り組むためには、児童・生徒の発言を生かし、話題を広げ、全体で共有して学びを進めていくことが大切だと考える。また、内容面を共有するだけでなく、言語面において、言いたいと思ったこと、言いたかったけれど言えなかったことを全体で共有することも大切である。言語面の指導の際には、児童・生徒にすぐに英語を与えてしまうのではなく、既習事項を使って言いたいことを表すことができないか、などを児童・生徒と一緒に考えていくことが必要である。児童・生徒の言葉だけで言い換えることが難しい時は、教科書の文やイラストを取り入れるなど工夫することができる。言いたい言葉を既習表現に置き換えられるように、繰り返し Small Talk を実践し、伝わった喜びや楽しさを味わわせることが大切である。

(3) 児童・生徒がやり取りをしながら、会話のつなげ方や質問を増やす工夫。

今回の研究の中で、Small Talk を通してやり取りを進めることが学習理解に大きく貢献していると考えた。しかし、アウトプットの時には、インプットをする必要があるため、意図的に使用させたい表現を何度も使ったり聞かせたりすることを忘れてはいけない。それだけでなく、会話をつなげたり、広げたりする語彙力を持つこと、そして、児童・生徒の会話が広がるように、会話のつなげ方や反応の仕方も同時に指導する必要がある。

(4) 単元の終末活動と Small Talk との内容を一致させ、継続して取り組むこと。

単元の終末活動と Small Talk との内容の一致が、より深い学びにつながると考える。Small Talk を継続していくことで、児童・生徒が単元のゴールに向かって、自己調整をしながら主体的に取り組む、やり取りを通して、相手の気持ち、意見を取り入れながら、自分の気持ちや考えを再構築しながら、より深い学びにつながっていると考えるからである。そのために、Small Talk を小学校1年生から中学校3年生までを見通して取り入れることが必要である。

4 おわりに

主体的・対話的で深い学びにつながるように工夫した Small Talk を継続して行うことで児童・生徒のみならず教師もが得ることはたくさんあった。

この研究を行う前は、単元を単発的に行うのみで、単元間、学年間に系統性を感じるものがあまりなかったが、Small Talk の中に、前時で習った表現を意図的に取り入れることで、復習や定着を促すことができたり、本物感や必要感、身近な話題を取り入れることで、児童・生徒自身ももっとこうしたいと思うことができたりする授業になった。

Small Talk に取り組む前は、教師も児童・生徒も、英語でやり取りができるのかとても不安だった。しかし、目的をもって単元のゴールに向かい、全体で内容面も言語面も共有していくことで、児童・生徒だけでなく、教師も会話が楽しいと感じるようになっていった。その楽しさは、単なるゲームや会話練習の楽しさではなく、自ら課題を解決したいという意欲、さらに、何をどう伝えればいいのかを考える楽しさに変わっていったと考える。友達の発言に対する返事や反応にも英語が多く使われ、自然と使えるようになっていった。児童・生徒は教師から学ぶだけでなく、友達の発言からも学んでいたのだと考えている。

また、間違いながら学ぶこともとても意義深いことだと感じた。たとえ児童・生徒の発する英語が拙いものであっても、教師が内容面を受け入れ、コミュニケーションを中断することなく、正しい英語で返してあげることで、自然と英語が身についている。児童・生徒が明示的に教えられていないのに、英語を使えるようになっていく様子は、幼児が母語を習得していくのと同じと考えられる。それは、“Repeat after me.” を何十回も児童・生徒に繰り返すことより、大切なことで、英語という言葉を通して、児童・生徒の思いを最大限に生かしていくことが何より大切だと考える。

今後も児童・生徒を観察し、より効果的な Small Talk の在り方を模索しながら、主体的・対話的で深い学びの実現を図っていきたい。

参考文献

- 文部科学省 (2017) 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」
- 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」